４．将来像の実現に向けた方針と取組

息子(高校生)「まちなかをエリア別に将来の過ごし方を想像してみたけれど、どうやったら実現するんだろう？」

母(40 代)　「具体的に取り組むために、今何があって、何が足りないのか考えてみましょう。」

４．１ エリア設定

エリアの特性や人々の過ごし方(将来イメージ)を踏まえ、以下の通り４つのエリアを設定します。

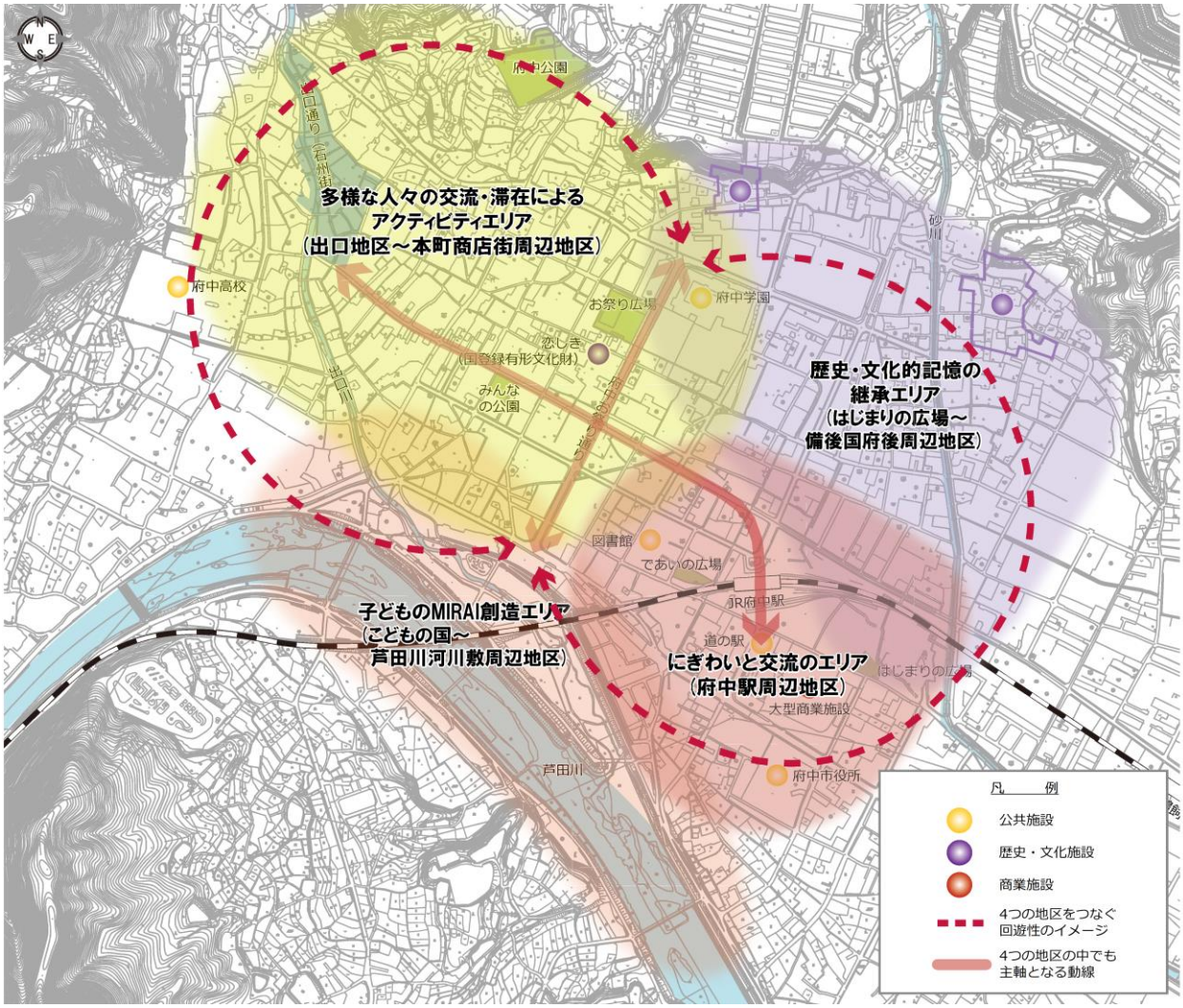

図　中心市街地・生活中心街のエリア区分

４．２ エリア別の戦略目標と取組方針

目指すまちの姿や人々の過ごし方（将来イメージ）の実現に向けて、４．１で設定した４つのエリア別に将来像と現状とのギャップ及び今後活かせそうな要素を整理し、各エリアで展開すべき戦略目標とその取組方針等について示します。

（1）にぎわいと交流のエリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち

にぎわいと交流エリア

■将来像とのギャップ

○駅施設は更新の時期を迎えており、交通結節機能の強化を図るためには駅前広場が手狭である。駅南北の歩行者等の動線のつながりが悪い
○駅周辺の空地、空きビル、空き店舗等が十分に活用されておらず、市民にとってくつろげる居場所、滞留空間がない
○市街地中心部では、空洞化が進んでいる

■今後活かせそうな要素

○まちの中心部に鉄道駅や道の駅、市役所その他公共施設等は駅を中心とした生活中心街に立地している。特に、駅を中心として他地域とつながっていることは大きい
○子育てや教育分野は、コミュニティスクールにより、地域とともにある学校づくりが定着し、待機児童ゼロなどの取組が全国トップクラスの先進地である強みを活かすことで、次なる施策展開が容易である
○学習の先進都市の顔として、ICT など次世代通信技術による技術を掛け合わせることで、次世代の拠点となり得る

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち

にぎわいと交流エリア

■将来像とのギャップ

○道の駅が地域振興機能を発揮できていない
○駅南北の歩行者等の動線のつながりが悪い
○駅前広場にバスの乗り入れがなく、交通結節機能が弱い
○駅周辺には空地、空きビル、空き店舗等が多く、十分に活用されていない
○ものづくりや伝統産業に対する市民の実感が乏しく、事業継承が課題である

■今後活かせそうな要素

○ものづくりの高い技術を有する企業が集積している
○ドローンレース大会等が実施されている
○道の駅やその周辺の空地・未利用地など、多くの人を集客し稼ぐためのポテンシャルはある
○瀬戸内ファクトリービューによる地域に開かれたイベントが実施されている
○大学誘致に取り組む団体がある

道の駅における賑わい創出

カフェ等による賑わい創出

芝生広場でのくつろぎ空間創出

特　性	○市役所や JR 府中駅、道の駅、大型商業施設、生涯学習センター、図書館をはじめとした府中市の都市機能が集積した日常生活の中心エリア
戦略目標	○道の駅や商業施設等が集積する府中市の玄関口として駅前の持つポテンシャルを活かし、機能強化を図ります ○駅周辺の南北の往来が活発になるよう、南北の連絡強化を図るとともに、地域住民と来街者が入り混じり、交流する拠点として、新たな賑わい創出を図ります ○市民の日常生活においても暮らしの安心を生む交流や“学び”の交流、クリエイティブで未知と出会う交流を図ることのできる拠点づくりを行います ○各エリアへの回遊を促す基点として、駅の北側を中心として官民によるパブリック空間の創出を先導するとともに、新しい生活様式に対応した働き方を実現する拠点形成を図ります ○駅周辺の低未利用地等を活用したまちなか居住の促進を図ります
取組方針	○府中の玄関口として JR 府中駅周辺を再整備し、交通結節点機能の強化、移動の快適さを図るとともに、市内外の人々の交流（ハブ）拠点や大学等と連携した教育や研究など、次世代通信技術を使い学習できる拠点として、空き店舗・空きビル等の遊休不動産の活用を含め、取組みを図ります ○生活機能の中心拠点として、子育て層をはじめ、市民がゆったりと時間を過ごせる場所づくりを行います ○まちなかだけでなく、周辺の住宅地においても、誰もが府中暮らしを楽しめるよう、生活機能の中心地と周辺の住宅地を効果的・効率的に連絡し、利便性の高いまちなかを実現します ○府中の中心となる賑わい拠点として、市民の暮らしに必要な利便機能と来街者が求める娯楽機能が交差し、市内外の人々の交流を促進する拠点形成を図ります ○特に、子育て層がゆったりと時間を過ごせるよう、駅の南北でのつながりや、“子どもの MIRAI 創造エリア”との一体的なエリア形成を進めます
将来像に向けた取組例	○ゆとりとくつろぎの広場・空間づくり ○駅周辺への商業施設・公共施設の集積 ○子育て支援機能や学習・研究・交流機能の導入 ○JR 府中駅のリニューアル ○空き店舗のリノベーション、空きビル等のコンバージョン ○健康増進施設機能の導入 ○図書館及び駅前通りファサード整備

（2）子どものMIRAI創造エリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち

子どものMIRAI創造エリア

■将来像とのギャップ

○河川空間活用のための施設整備には、法による制約の整理が必要
○河川敷の一部で遊歩道、親水護岸整備をされているが、更なる河川空間の活用が必要とされる
○こどもの国の利用者や河川空間で遊ぶ利用者のための駐車場が不足している

■今後活かせそうな要素

○親が安心して子育てができる“子ども関連施設”と南北を大小の河川で挟む自然豊かな環境から、次世代を育てる拠点になり得る

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち

子どものMIRAI創造エリア

■将来像とのギャップ

○河川空間活用のための施設整備には、法による制約の整理が必要
○駅周辺からの歩行者動線がわかりにくい
○こどもの国の利用者や河川空間で遊ぶ利用者のための駐車場が不足している

■今後活かせそうな要素

○週末には、今も多くの来街者が訪れて、こどもの国を満喫している
○“子ども関連施設”と南北を大小の河川で挟む自然豊かな環境に恵まれている
○トップアスリートを擁するスポーツチームと市内体育施設や学校を通して交流している実績がある

賑わいに溢れる河川空間

河川を総合学習の場として活用

特　性	○府中市の強みでもある子育て支援の拠点として、こどもの国を中心にしながら、子育て支援の拠点として、芦田川・出口川などの河川空間を活かしなら、“遊び”や“教育”のあり方を発信するエリア
戦略目標	○府中市の強みでもある子育て支援の拠点として、“MIRAI”のまちづくり戦略のコアとなるエリアを形成し、次の世代へと受け継いでいくためのメッセージを発信します
取組方針	○子どもやその家族も楽しめるエリアとして、こどもの国を中心に、芦田川と出口川を結ぶ自然が充実したエリアを形成します ○児童館の外遊びや周辺と連動した公園整備を行い、賑わいをまち全体に波及・発信するとともに、”遊び”を通じた子どもたちの健全な成長を促します ○河川空間活用との連動やＰＯＭ小路を歩いて楽しめる空間にし、駅とのつながりをつくります ○子どもたちから高齢者までが、スポーツを日常の一部として楽しめる環境をつくります
将来像に向けた取組例	○水辺や風を感じ、自然と親しむ空間を活用した賑わいづくり ○アーバンスポーツの充実等を図る、運動・交流機能の導入 ○「にぎわいと交流のエリア」とを連絡する楽しい歩行空間づくり ○トップアスリートと交流できる環境づくり

キッチンカーなどによる賑わいの創出

トップアスリートとの交流や
新しいスポーツ機能の導入

（３）多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち

多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア

■将来像とのギャップ

○狭小敷地の連坦や狭あい道路等により、土地利用に制約がある
○空き家、空地の増加により、防犯や衛生上、地域の課題となっている
○居住者の高齢化により、地域コミュニティを再生するためのきっかけづくりが必要
○商店の減少により活気が減少している、また、次世代による店舗の継承、新たな出店等、活動できる環境が求められている
○伝統産業を守り、育てる取組が必要

■今後活かせそうな要素

○子育てや教育分野は、地域と学校が密着し地域と協働で“人”を育て”学び”の場を創るなど、全国トップクラスの先進地であり子育ての分野では、待機児童ゼロ、一時預かり等により、子育て環境は整っている
○都市部にはない風情のある古民家が多く建ち並んでいることに加えて、ICT など高速通信技術の導入によって、都市部よりも一層、魅力的な職住空間に生まれ変わることのできる潜在性がある

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流･ビジネス活動がアクティブなまち

多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア

■将来像とのギャップ

○市内企業の多くが、ものづくり（２次産業）と販促（３次産業）はすみ分けて考えており、みやげなど、販促と一体となった事業化が必要
○空き家・空き店舗等が柔軟に活用されていない
○空き家・空き店舗が連なっている通りとなっている
○まちなみから郡役所のあった時代の面影が失われつつあり、歴史的まちなみを活かすための取組には地域住民の意識共有と時間を要する

■今後活かせそうな要素

○郡役所の移転候補地と駅周辺、商店街等は、中心市街地・生活中心街再生のコアとなるため、施設とその周辺を効果的に活用することで、活動や移動が活発になる可能性がある
○外国人にとって魅力的な日本の歴史を感じることのできる施設が多く点在している
○アートは回遊性を生むための仕掛けとして効果が高く、協力者を募ることができれば実現性が高い
○石州街道・出口地区まちづくり協議会によるまちづくりのノウハウ

地域分散型ホテルの整備

古民家等のリノベーション

特　性	○お祭り広場や本通り商店街、恋しき、近世・近代のまちなみなどの歴史的資源が多く集積しており、近年では古民家等を現代風に再生したカフェなど、リノベーションが進んでいるエリア
戦略目標	○近世の宿場町であった雰囲気を残しつつ、古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくりにより、人中心の中心市街地・生活中心街へのリノベーションを推進します ○近代のものづくり産業が発展した府中のシンボルとして、多様な人々が回遊し、滞在するエリアとして、古さを活かし、新しさを融合するまちづくりを推進します ○古民家等の歴史的に価値ある資源をリノベーションした居住の促進を図るとともに、落ち着きのあるまちなみで、地域住民が“普段着”の交流を図るエリア形成を推進します
取組方針	○石州街道出口地区の景観を活かしリノベーションした施設において、味噌等の特産品の販売や地区ならではの体験、地域活動やイベントが開催されるなど、地域住民と来街者が交流し、出会う場を形成します ○近代・近世のまちなみ、府中を代表する建築物の修景を図るとともに、これまでの既成概念にとらわれない多様な用途による建物活用により、まちなみの魅力を引き出します ○市民による空き家・空き店舗等の有効活用により、中心市街地・生活中心街暮らしや立ち寄れるスポットづくりを行うなど、まちあるきを楽しめるエリアを形成します ○お祭り広場や府中市地域交流センター等を中心とし、多様な人々が交流・滞在するイベントや地域活動の場として活用するなど、活動や交流による賑わいやアクティビティが感じられる拠点を形成します
将来像に向けた取組例	○空き家等のホテルやカフェ等への転用など、多様な人々の交流・滞在空間の創出 ○ものづくり工房やアトリエ等の市民に開かれた“ものづくりの場”の展開 ○回遊性を高める歩行者空間のウォールアート化や空き店舗等を活用した市民アートギャラリー化の推進 ○まちなみの風情を活かした空き家等の柔軟な利活用・リノベーション支援 ○歩いて楽しい歩行空間づくり ○次世代モビリティによるまちなか移動の検討 ○居心地が良く歩きたくなるまちなか形成のための駐車場適正配置

（4）歴史・文化的記憶の継承エリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち

歴史・文化的記憶の継承エリア

■理想とするまちの姿とのギャップ	○「史跡備後国府跡」の指定地の用地取得や調査は進んでいるが、市民に取組に対する理解を深める必要がある ○現在の歴史民俗資料館（旧芦名郡役所）を移築し、別用途での活用を図る場合、備後国府に関する展示、情報発信を行うために別の拠点整備が求められる
■今後活かせそうな要素	○改正された文化財保護法に伴う「文化財保存活用地域計画」や、史跡指定に伴う「史跡備後国府跡整備基本計画」の策定と、計画に基づいた史跡及びその周辺の具体的な保存や活用 ○府中のこれまでの歴史に ICT など次世代通信技術を掛け合わせた案内をすることで、最新技術による次世代の歴史を学習 ○備後国府の「政庁」が見つかっていないこと、備後国府関係の遺跡が市街地北側に位置すると予想されることから、今後の調査の過程や成果により歴史ロマンを育む要素とする

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち

歴史・文化的記憶の継承エリア

■将来像とのギャップ	○「史跡備後国府跡」は調査が進行中であり、拠点施設整備や観光に向けた活用には時間を要する
■今後活かせそうな要素	○改正された文化財保護法に伴う「文化財保存活用地域計画」や、史跡指定に伴う「史跡備後国府跡整備基本計画」の策定と、計画に基づいた史跡及びその周辺の具体的な保存や活用 ○府中のこれまでの歴史に ICT など次世代通信技術を掛け合わせた案内をすることで、最新技術による次世代の歴史を学習 ○備後国府の「政庁」が見つかっていないこと、備後国府関係の遺跡が市街地北側に位置すると予想されることから、今後の調査の過程や成果により歴史ロマンを育む要素とする

古代散策ルート及び案内板の整備

広場空間と一体となった
遺構の保存･活用イメージ

特　性	○総社やはじまりの広場など「備後国府」に関わる歴史・文化を包蔵し、府中の起源となるエリア
戦略目標	○「史跡備後国府跡」の保存・活用をはじめ、府中の古代・中世の歴史や文化についての記憶を継承し、市民に日常的に活用し親しんでもらいます
取組方針	○「史跡備後国府跡」の指定地を、市民や子どもたちの学習や憩いの場、イベント会場や遊び場として、また県内外の来街者が集う観光と交流の場所として、建物等の復元、VR・AR などの ICT 技術の活用により、楽しく分かりやすく整備・活用します ○指定地に隣接した場所には、備後国府をはじめ、府中の歴史・文化に関わる資料の収集・調査研究・展示公開・学習支援を行う拠点施設を設置し、府中の歴史・文化・観光などの情報発信を行います ○歴史・文化の町中散策や市域を超えたツーリズムや市民のガイド活動など、様々な仕掛けづくりを実施します
将来像に向けた取組例	○歴史・文化学習の場としての整備・開放 ○歴史・文化散策ルートの整備 ○市民活動の組織化

整備されたはじまりの広場

国府ウォーク（歴史関係イベント）の様子

■実現に向けた展開イメージ

エリア別の取組方針の実現に向けて、エリアの特性や活かせそうな要素を踏まえた取組を展開するため、各エリアの拠点性を高めるための考え方やエリア間を効果的につなぎ、回遊性を高めるための考え方について整理し、「エリア別将来イメージ」「将来像に向けた取組例」にまとめます。

息子(高校生)

エリア別の特性や戦略目標、取組方針、実際に取り組もうとしていることがなんとなくわかってきたかなぁ。
こうして見てみると、各エリアで将来像とのギャップはあるけど、今後活かせそうな要素も結構あるもんだね。
これらの要素を活かせば、ほんとにまちが変わっていく気がしてきたなぁ。

母(40 代)

確かに、戦略目標と取組方針を見ると、具体的に何を目指して、どのようなことに取り組もうとしているか見えてきたわね。

父(50 代)

活かせそうな要素を見てもらうとわかると思うけど、府中市が有する自然･歴史･文化などの資源もあれば、ものづくりとか、NPO 等の精力的な活動なんかも今後、府中市の発展に活かせる要素になることがわかるな。それだけじゃなくて、新技術とか将来求められることも府中市には備わっているんだな。

娘(20 代)

そうだね、昔からある技術から将来に向けた新技術まで活かせるものがあるってすごいことだよね！
個別のエリアの戦略目標などはよくわかったし、エリア間のつながりや、具体的な取組例とかは、第4章の最後にある地図で見てみると、もっとよくわかるよね。
第3章にもあった、将来イメージのスケッチと取組事例の写真もあるから、具体的なイメージがわきそう。

息子(高校生)

次のページ以降の「エリア別将来イメージ図」と「将来像に向けた取組例」を見ると、4つのエリアの位置関係やそれぞれのエリアで取り組むことも具体的によくわかるから、全体の将来イメージができるね。